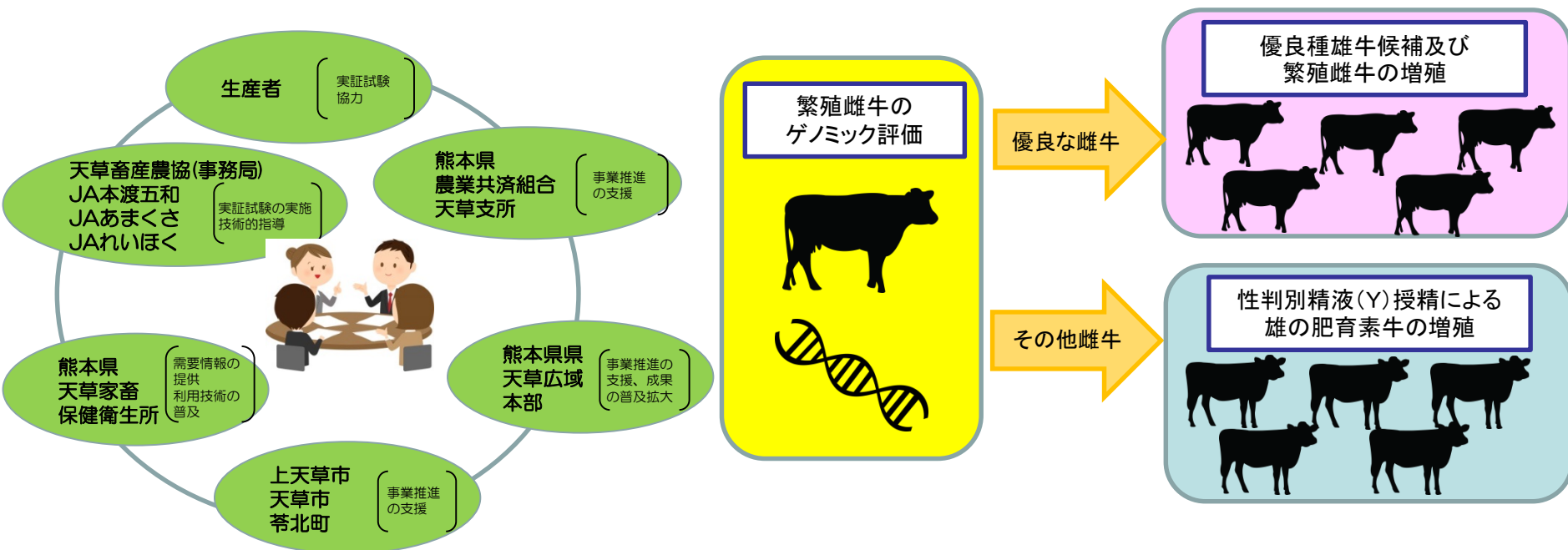


天 草 黒 牛 生 産 振 興 協 議 会

家畜改良・繁殖技術を活用することにより、優良繁殖牛及び市場価格が高い雄肥育素牛の増殖に取り組むことにより肉用牛生産基盤の強化を図り、地域全体の収益力向上を実現する。



【取組内容】

- ゲノミック評価を用いて、遺伝的能力の優れた繁殖雌牛の選抜
 - 選抜された繁殖雌牛に優良種雄牛を授精することによる、優良種雄牛候補及び繁殖牛の増殖
 - その他の繁殖雌牛に性判別精液を授精することによる、市場価格の高い雄の肥育素牛を増殖
- これらにより、肉用牛生産基盤の強化を図り、地域の収益力の向上を図る

【事業の効果】

- 雄肥育素牛頭数の増加による収益性向上
 - ・雄子牛の取引頭数 55%(H27)→63%(H32)
 - ・雄子牛の増加頭数 1,173頭(H27) → 1,260頭(H32)
 - ・収益の向上効果 87頭×727千円(平均価格)=63,249千円
- 遺伝的能力に優れた繁殖牛の生産による、肉用牛生産基盤の強化及びブランド力の向上
 - ・優良な種雄牛候補の生産 2頭(H27)→4頭(H32)
 - ・遺伝的能力に応じた繁殖牛増殖による肥育素牛の高付加価値化

麦WCS及び麦SGSの生産給餌試験事業 千葉

野田市畜産クラスター推進協議会

冬期の畑地の表土飛散防止対策のために栽培されている収穫を目的としない麦を、飼料として活用することにより、酪農家での飼料コストの低減及び耕作放棄地の抑制を実現

構成員と役割

<生産者等>

野田市酪農家
(麦WCS及び麦SGSの給餌試験
飼料費低減効果の検証等)

農事組合法人 営農きまがせ
(麦WCS試験生産等)

野田市農政課
(事務局、総括)

<関係機関等>

千葉県東葛飾農業事務所
(技術指導・データ分析等)

ちば東葛農業協同組合
(乳成分分析等)

**千葉県農業共済組合連合会
西部家畜診療所関宿出張所**
(診療、助言等)

株式会社 野田自然共生ファーム

(麦SGSの破碎加工、飼料運搬)
※野田市堆肥センターを管理している第3セクター

実証内容

市単独事業により、冬期の畑地の表土飛散防止対策と景観の保全を目的に栽培されている麦を活用し、麦WCS及び麦SGSを試験生産する。生産された飼料は、乳牛へ実証給与し、乳量・乳質への影響等を確認し、コスト低減効果を検証する。
この結果を踏まえ、麦の飼料化について、検討する。

効果

【飼料コストの低減】

麦WCS: 12.5円/kg(水分70%)
輸入乾草1kgと麦WCS3kgを置き換え
55円/kg → 37.5円/kg

麦SGS: 27円/kg(水分25%)
配合飼料1kgと麦SGS1.3kgを置き換え
50円/kg → 35.1円/kg

【地域の収益性向上】

地域全体で麦WCS 5ha、麦SGS 5haに
取り組んだ場合の生産量と置き換えられ
る飼料の量(年間)

麦WCS: 75,000kg → 輸入乾草: 25,000kg
麦SGS: 15,000kg → 配合飼料: 11,538.5kg

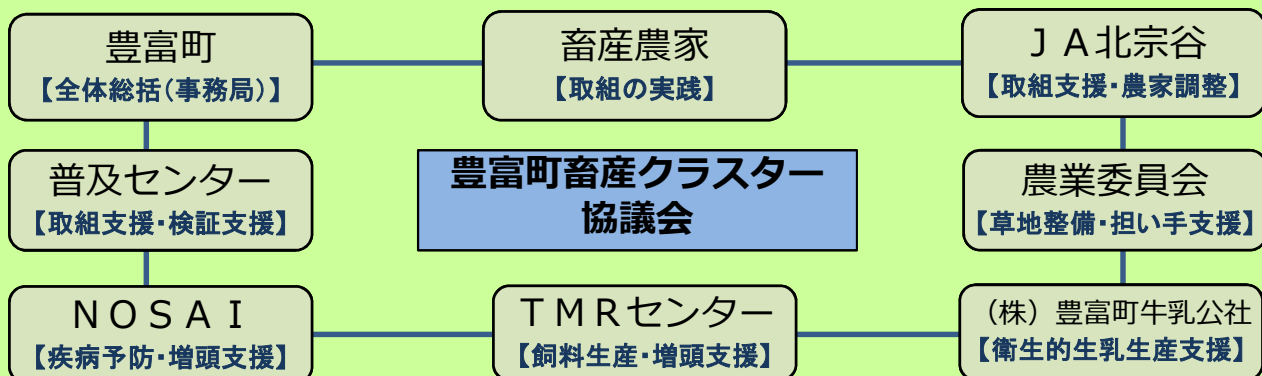
麦WCS: 437,500円 } 合計609,423円の
麦SGS: 171,923円 } コスト低減

豊富町畜産クラスターソフト事業計画

課題名：簡易更新による泥炭草地の適正イネ科草種・管理方法の確認

取組内容と目標

- ① 泥炭草地の生産性改善について実証ほを設置し、草種・施肥、刈取管理別の効果を検証
- ② 有効な草種、管理方法を確認し、試験ほ内の牧草T D N割合を0.5%向上する
- ③ 関係機関の情報共有、畜産農家への研修会開催により、良質粗飼料生産の向上を図る



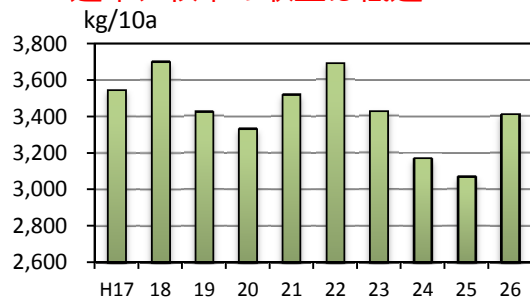
現状と課題

■ 豊富町は泥炭土が多い！

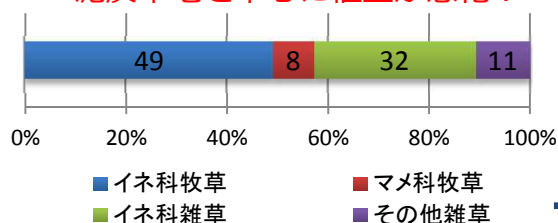
	耕地面積 (ha)	内泥炭面積 (ha)	泥炭割合 (%)
豊富町	12,500	4,714	38
稚内市	15,500	2,363	15
枝幸町	7,280	498	7
歌登町	5,590	54	1
猿払村	5,490	535	10
浜頓別町	5,850	569	10
中頓別町	3,730	0	0

枝幸町と歌登町は合併前の旧町

■ 近年、牧草の収量は低迷！



■ 泥炭草地を中心に植生が悪化！



実証内容



泥炭草地に多い雑草
リードカナリーグラス (RCG)

■ RCGに強い牧草は？

- ・チモシー
- ・オーチャードグラス
- ・ペレニアルライグラス

■ 施肥・刈取回数は？

- ・施肥回数 1～3回
- ・刈取回数 1～3回

雑草の少ない草地造成により、牧草地の生産性を高める！

■ 豊富町畜産クラスターの「3自給飼料の拡大」を補完するデータ蓄積につながる！

成果目標

■ 牧草T D N割合を現状よりも0.5%向上する！

地域への普及方法

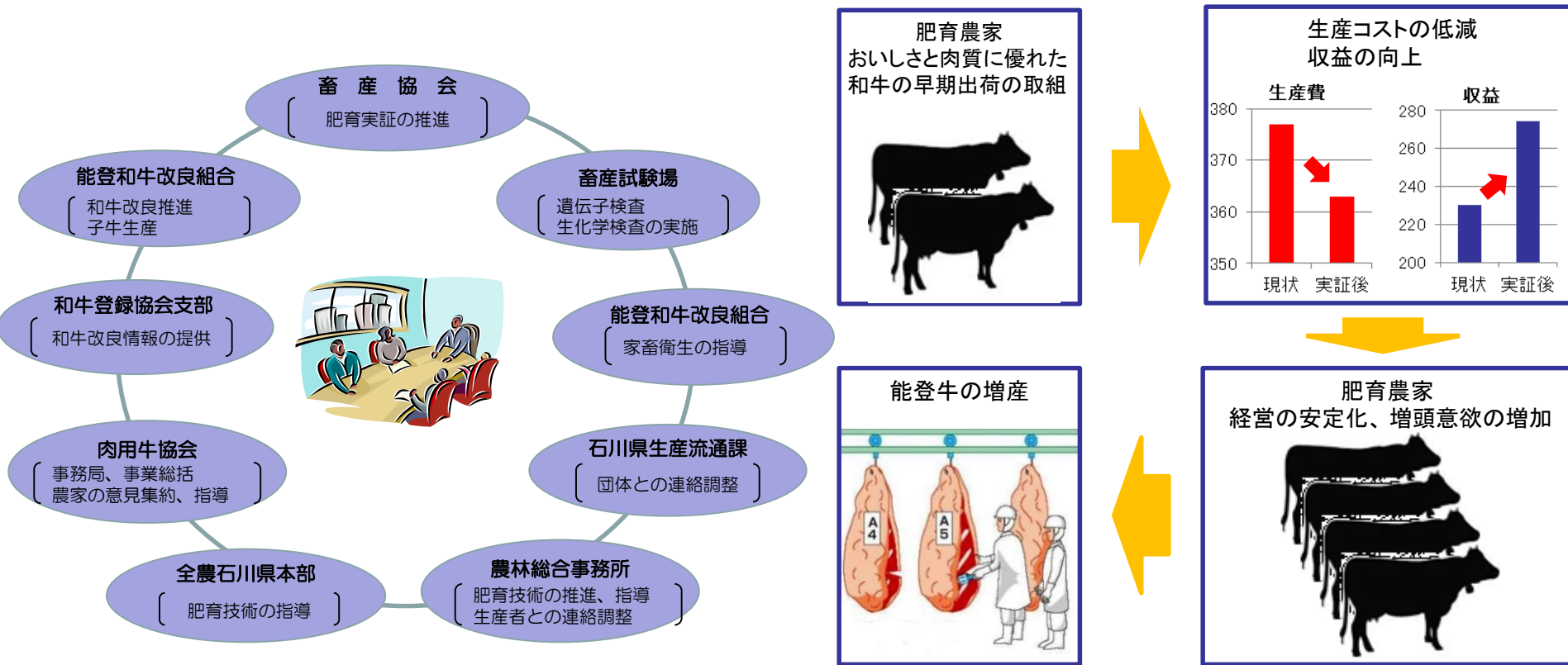
- ・検討会の開催
- ・先進地域等の調査
- ・実証ほの設置と検証

- ・関係機関と情報共有
- ・畜産農家へ普及



石川 県 能 登 牛 増 産 推 進 協 議 会

おいしさと肉質に優れた和牛生産の早期出荷体制を整備し、生産費の低減と和牛の増産による地域和牛収益の向上を実現



【実証内容】

- おいしさと肉質に優れた和牛の早期出荷を実証し、生産費の低減を図る。
- 早期出荷の取り組みにより、生産費の低減による肉用牛経営の収益向上を図り、和牛生産基盤を確保。

(肥育農家の効果)

- 出荷月齢の早期化による生産費の低減による農家収益の向上

出荷月齢の早期化	28.2ヶ月齢→27.2ヶ月齢
枝肉販売価格	1,255千円→1,300千円
 - 収益の向上による増頭意欲の増加

能登牛生産頭数	672頭→1,000頭
---------	-------------
- 地域全体で456百万円/年

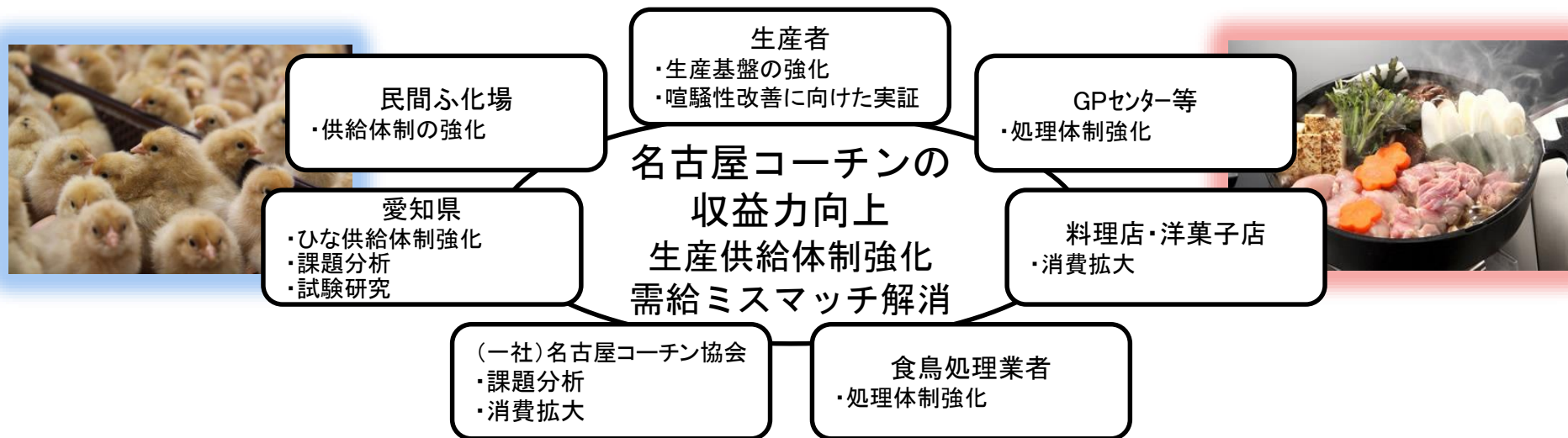
 - 肥育農家 456百万円

地域全体で456百万円の販売額増
・肥育農家 456百万円

名古屋コーチン協議会

課題 名古屋コーチンは、市場ニーズに応えられる生産量を確保できていないため、需給のミスマッチが起きている

名古屋コーチンの生産・供給における課題の分析や名古屋コーチンの特性を踏まえた新たな飼養管理技術を確立し、収益力向上を実現させるとともに、生産給体制を強化させるための計画を策定。



取組の内容

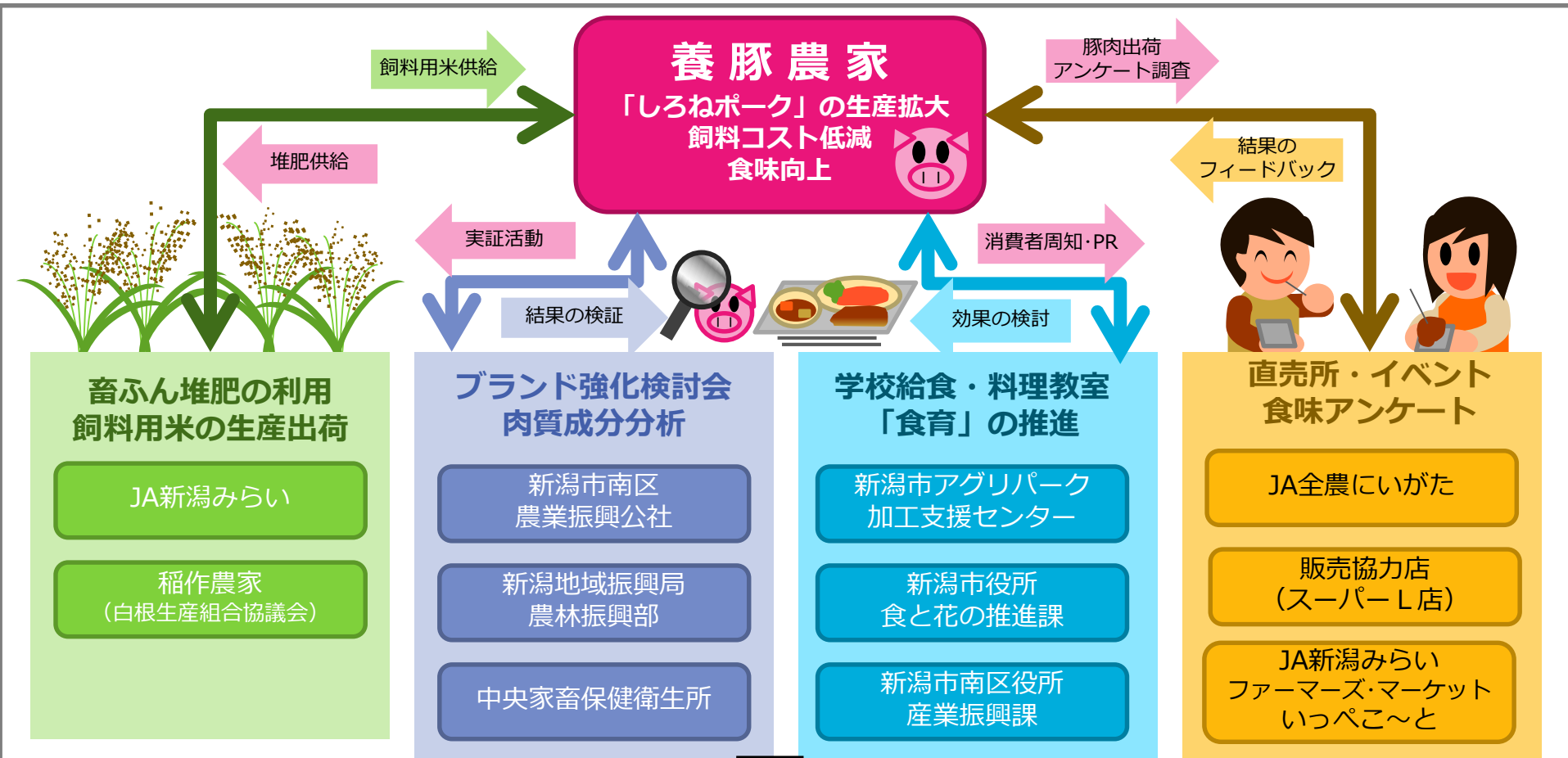
- 名古屋コーチンの喧騒性を踏まえた新たな飼養管理技術の実証
- 生産や流通段階における課題の調査分析
- 生産供給体制強化方法の検討

取組の効果

- 喧騒性による経済的損失を最小限に抑える新たな飼養管理技術により、出荷率が向上し(90.5%→93.0%)、収益力が強化
- 生産基盤の強化や販路の拡大による需要の創出により、名古屋コーチンの生産拡大
- 名古屋コーチン生産振興計画を策定し、生産供給体制の強化を推進

新潟市民に愛される「しろねポーク」の肉質向上実証

-飼料コストの低減と「食育」による認知度の向上を目指す！-



「しろねポーク」ブランドの強化と産地の継続発展

実証内容

畜産農家：地域の稲作農家から供給される
飼料用米を活用した飼料給与技術の確立
直売所：イベント、アンケート等による食味の検証

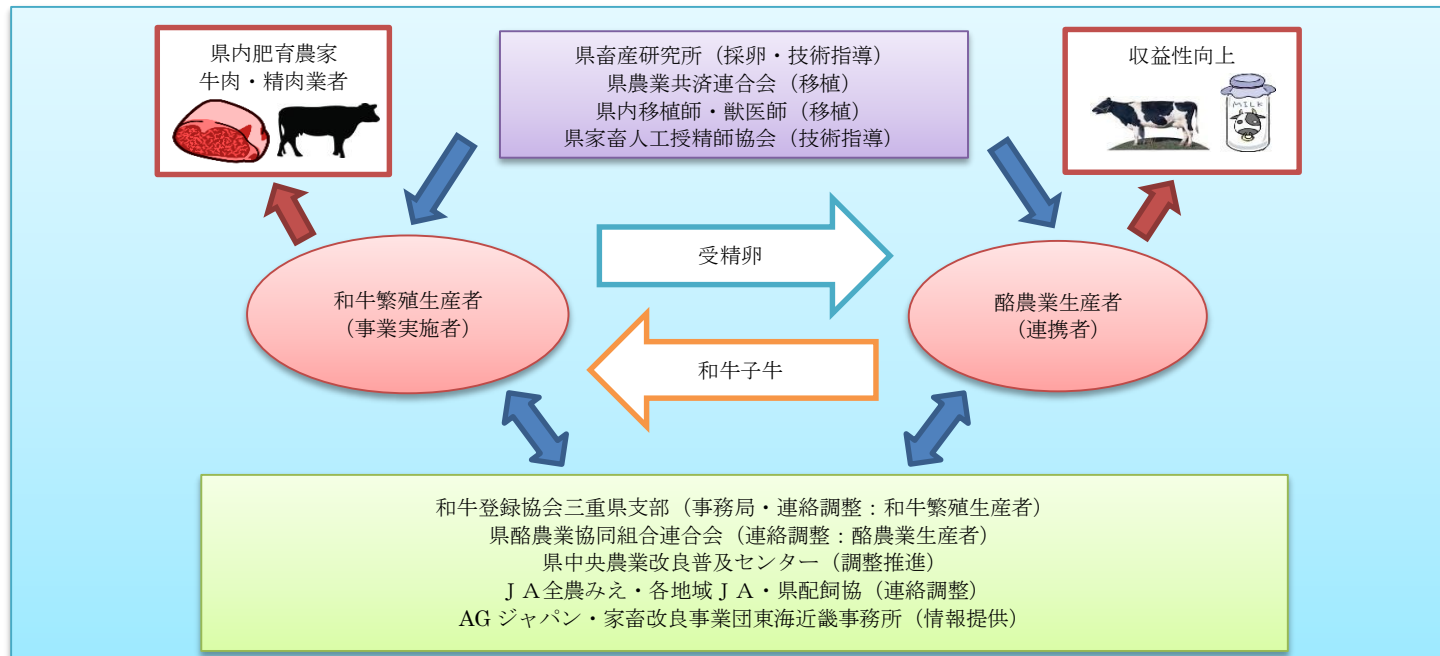
効果

稲作農家：余剰資源の有効活用，土作り推進→異常気象に強い良質米の生産，高付加価値販売
畜産農家：飼料コスト低減，堆肥製造による糞尿問題の解消→増産体制の構築，**しろねポーク出荷額35%UP(H27比)**

三重県和牛繁殖協議会

課題：三重県の肉牛生産は肥育が主体の県であり、素牛導入は県外に依存している。全国的に子牛の生産頭数が減少していることから、素牛導入が難しくなっており、子牛生産基盤の確保が喫緊であるが、県内の繁殖農家が少ないことから進展しない状況である。

E T技術の活用による三重県内の和牛繁殖生産者と酪農生産者が連携した和牛子牛増産に向けた取組み



実証内容

●和牛繁殖生産者からの受精卵（優良メス牛）を用いて酪農生産者に移植を行い、ヌレ子（1週間～数ヶ月）を和牛繁殖生産者が引取り育成・管理する流れを実証し、稼働しているキャトルセンターへの現地視察研修を行う。

生産子牛の育成・発育等の飼養管理のマニュアル化による普及促進を目指し、将来的には県内和牛子牛育成拠点となるキャトルセンターの構築を目指す。

効果

【E T産子数の増加】

730頭（平成27年） ⇒ 800頭

【キャトルセンターの構築】

酪農生産者の飼養管理労力の低減

【県内産子牛の県内流通】

生産された子牛を県内和牛繁殖生産者で引取ることにより県内流通が確立

【県内の和牛改良】

優良繁殖用メス牛の受精卵を利用することで、繁殖メス牛の改良促進

地域養豚の再生・発展を目指して地域関係者が連携した畜産クラスター事例

宮古地域養豚エコブランド確立推進協議会

沖縄県宮古地域

食品残さを利用したエコフィード飼養衛生管理技術の構築及び「宮古エコブランド肉豚」の創出による地域養豚再生の実現

宮古家保
(助言・指導・検査・実証補助)

宮古島市
畜産振興公社
(農家助言指導・事業助言)

宮古食肉センター
(事務局・総括・実証取りまとめ)

J A おきなわ宮古地区本部
(助言・指導)

県宮古農林水産振興センター (営農指導・助言)

県農業共済家畜診療所 (疾病予防・繁殖管理助言・指導)

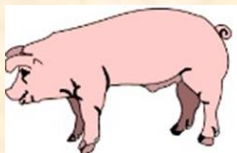
養豚農家
(実証試験・技術向上)

食品販売・加工業 (ブランド助言)

家畜改良センター
畜産研究センター
(管理技術・実証アドバイザー)

飲食業
(ブランド助言)

給食センター・泡盛工場
食品残渣の供給



【現状】

年間産子(母豚1頭当り) 20頭
年間出荷頭数(母豚1頭当り) 8.7頭
日増体量 0.32Kg~0.53Kg
肉質 すべて等外
※養豚業として成り立っていない現状

【実証内容】

- ①食品残さと配合飼料との給与割合の検討及び実証試験 → 増体、発育、代謝等を検査・評価し、給与プログラムを確立
- ②生産性向上のための飼養管理技術の改善 → 生産性阻害要因防除プログラムの確立
- ③エコフィード利用地域ブランド肉豚の検討及び実証試験→繁殖性・肉質、嗜好性等を分析し、ブランド化を検討

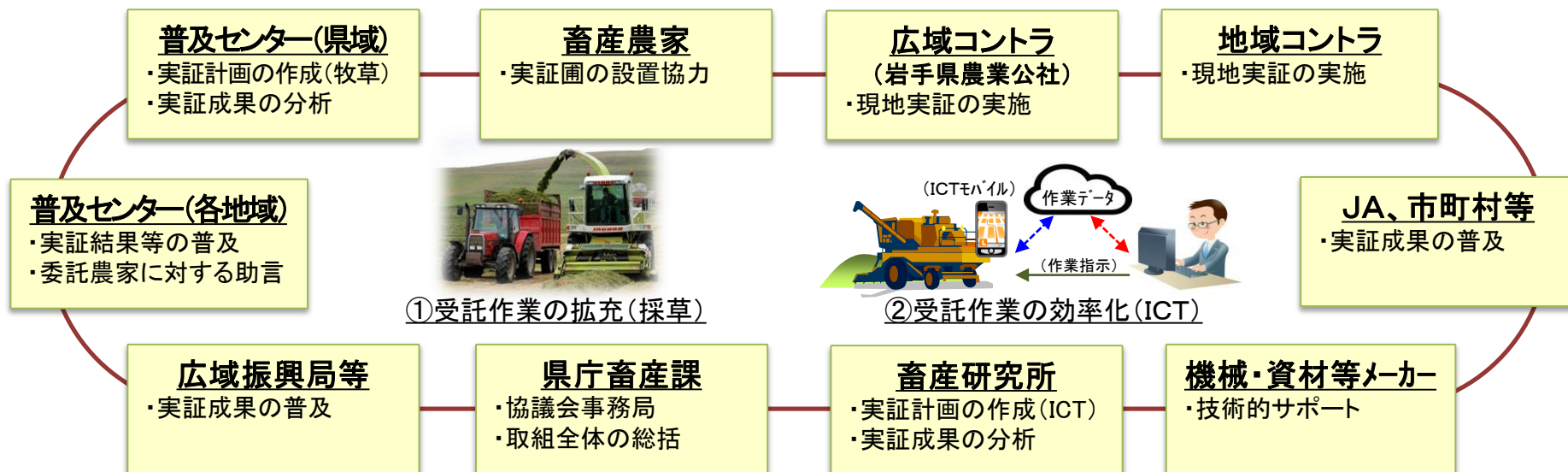
【効果】

- ①地域生産の向上
地域肉豚出荷実績735頭(H26)→1300頭(H31)
子豚育成率の向上→母豚1頭当たり年間仕上げ頭数8.7頭(H26)→11頭(H31)
出荷日齢 266日(H26)→240日(H31)
地域養豚経営再開 11戸(H26) → 13戸(H31)
枝肉重量 65kg/頭(H26)→75kg/頭(H31)
- ②付加価値の向上
地域エコブランド肉豚の創出

いわてコントラクター等利用推進協議会

○ コントラクター等の①受託作業の拡充と②受託作業の効率化に係る実証により、作業の省力化、飼料の低コスト化・高品質化を図り、畜産経営の収益性向上を実現

○ 実証成果等は、県内のコントラクター等関係者が連携・結集した体制(畜産クラスター)で共有し、コントラクター等の利用拡大を後押し



取組内容

○ コントラクター等による牧草収穫について、収穫方法(①慣行、②ダイレクトカット)と添加剤種類を組み合わせ、飼料品質及び作業性等を検証。

○ ICTを利用した圃場管理システムにより、圃場別の作業時間等を一元管理・分析し、作業工程の改善方策等を検討。

効果

【コントラクター等の作業受託面積(延べ)の増加】

- ・牧草 1,557ha(H26)⇒1,700ha(H31)
- ・飼料用とうもろこし 865ha(H26)⇒1,000ha(H31)

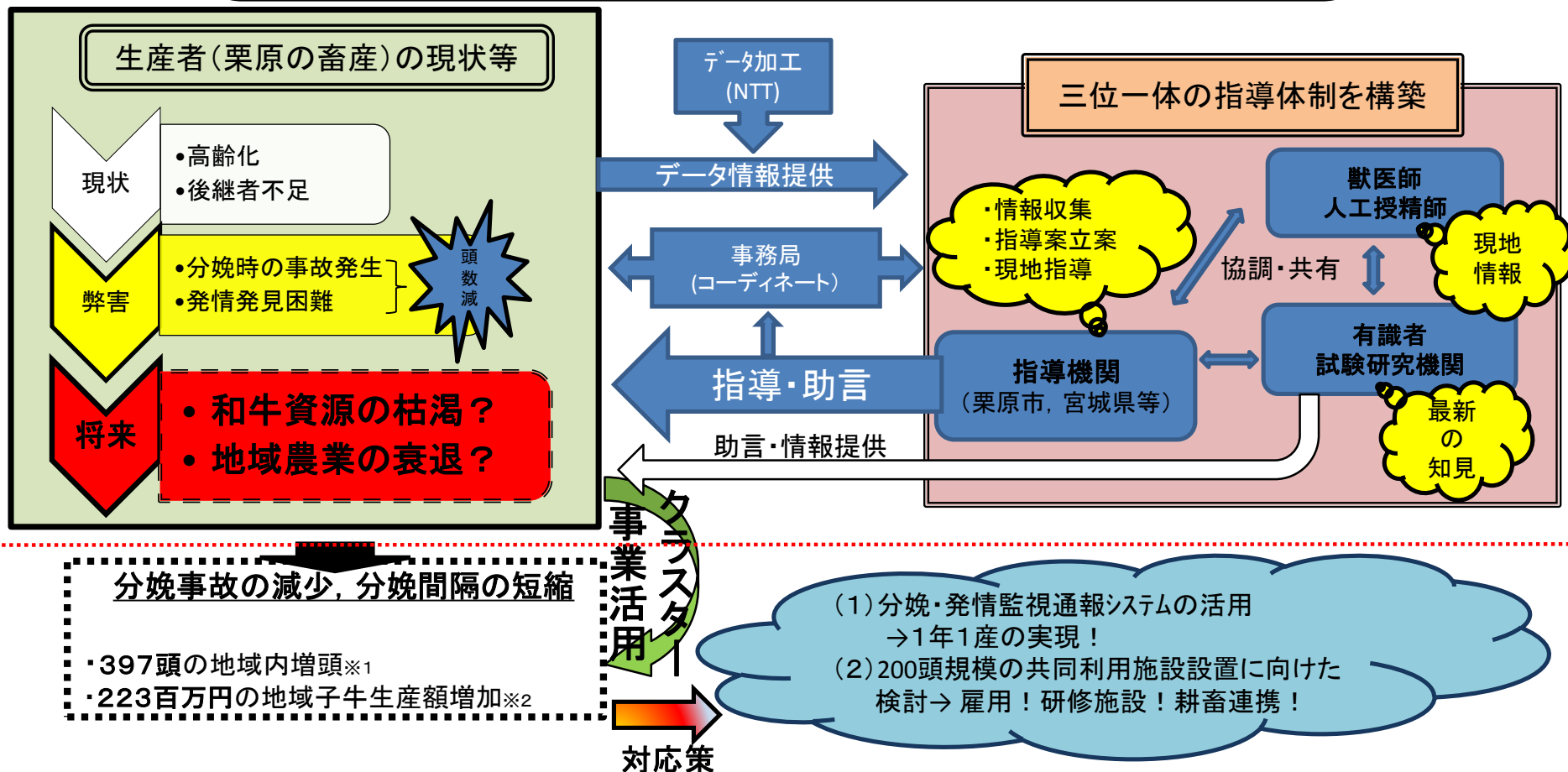
【委託農家の生産性向上】

- ・飼養管理等への集中による生産性の向上(生乳生産、子牛生産の増加)

JA栗っこ畜産クラスター協議会を核とした地域と畜産の振興

実証内容

- 1 生産性の向上(分娩・発情監視通報システムの活用)
- 2 地域の和牛生産基盤の維持・拡大(共同利用施設の設置)



※1 397頭増の根拠(A+B)

- 地域内繁殖牛頭数 3,300頭
- 分娩間隔 現況 13.8ヶ月 → 事業効果 12.8ヶ月 (-1M)
- 子牛生産頭数 現況 2,869頭 → 事業効果 3,093頭 (224頭増) ...A
- 200頭規模共同利用施設による子牛生産増
- 子牛生産 200頭 × 12/13.8 = 173頭 ...B

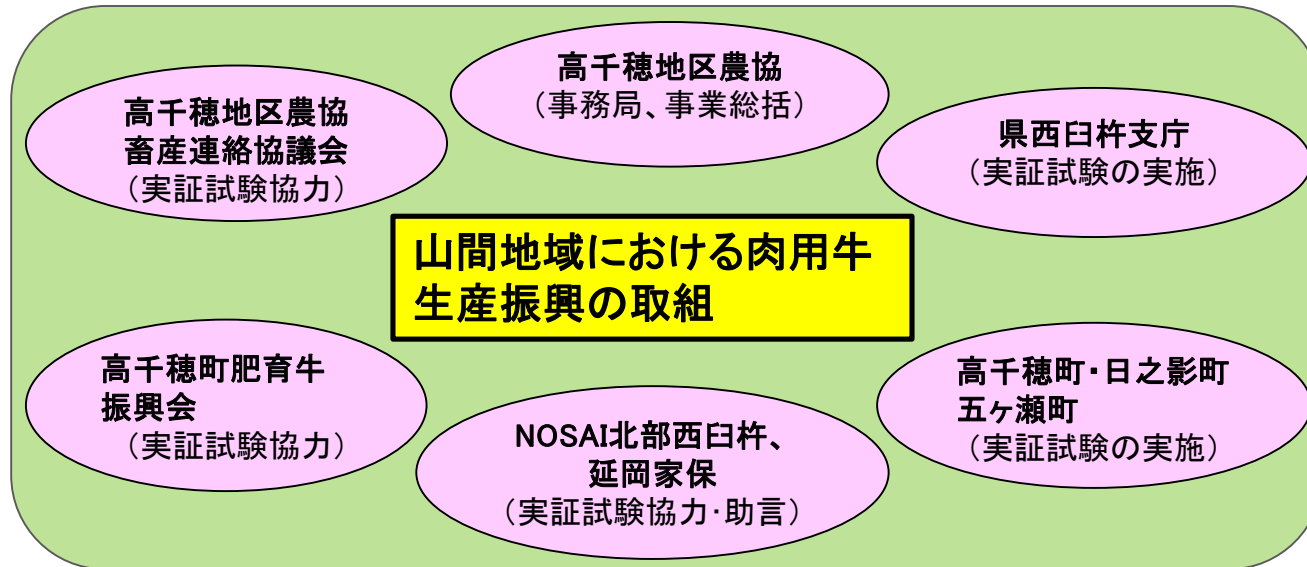
※2 223百万円増の根拠

- 子牛397頭(※1) × 平均販売金額56.4万円(※3)
- = 223百万円

※3 平成26年度のJA栗っこ平均子牛価格

西臼杵地域肉用牛クラスター協議会

山間地域において自給飼料利用の拡大、肉用牛の生産性向上を推進し、肉用牛生産基盤の強化を図ることにより、地域全体の収益力向上を実現する。



担い手育成・規模拡大支援等の検討会、技術研修会の開催



【実証内容】

安定的な畜産経営の維持が困難な山間地域において肉用牛生産基盤の強化を図る。

- ・繁殖雌牛の生産性向上(受胎率の向上)を図るため、飼料給与方法等の飼養管理技術を検討。
- ・粗飼料の安定確保を図るため、粗飼料流通体系の確立(WCS給与試験・コスト分析)及び放牧の推進(草種選定試験、コスト分析)。

この結果を踏まえ、肉用牛支援システムを構築し西臼杵地区の肉用牛生産振興を図る。

【効果】

- ・生産基盤の強化
肉用牛支援システム構築による繁殖雌牛の増頭 4,544頭→5,100頭
- ・生産性の向上
飼養管理技術の向上による繁殖雌牛の受胎率向上 83%→85%
- ・放牧の推進
地域にあった草種選定による放牧期間の延長

地域全体で3.4億円の収益増

子牛の生産頭数の増加
現状: $4,544 \text{頭} \times 83\% = 3,770 \text{頭}$
目標: $5,100 \text{頭} \times 85\% = 4,335 \text{頭}$
 $(4,335 \text{頭} - 3,770 \text{頭}) \times 60 \text{万円} = 3.4 \text{億円}$

西興部村畜産クラスター協議会

地域実情に合った自給飼料作物新種の導入及び草地植生の維持・改善の取組により良質粗飼料の収量確保を行い、調整方法等の技術向上により濃厚飼料の活用域軽減に取組し、乳質・乳成分の安定化を図ることにより疾病の軽減と未然防止、高付加価値な生乳生産を付帯効果として地域酪農に於ける収益力向上を実現させる。

実証内容

【平成28年度】

○検討会の開催・現状分析

○デントコーン施肥改善効果実証

○デントコーンTDN収量改善実証

○デントコーン土壌処理除草実証

○フロストシーディングによる収量改善実証

○ICT機器活用による分娩事故防止実証
(優良後継牛の分娩事故未然防止)

○先進地視察

協調・協働・共有

【西興部地域酪農の現状】

- ☆草地の高雑草割合と圃場メンテナンス法の確立
- ☆高雑草化に対応する飼料調製技術の向上
- ☆自給飼料作物の収量改善と飼料自給率向上
- ☆良質粗飼料確保による乳質・乳成分の向上
- ☆優良後継牛確保
- ☆牛個体の疾病・事故の軽減と未然防止

事業活用・推進

農業所得向上

地域活性化

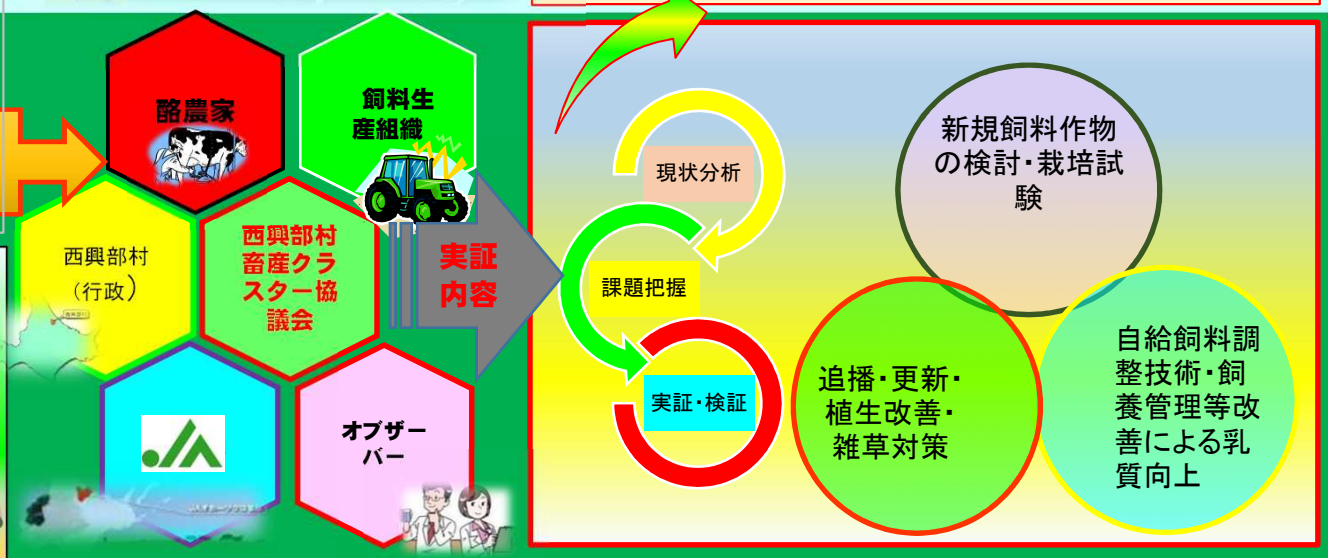


○効果

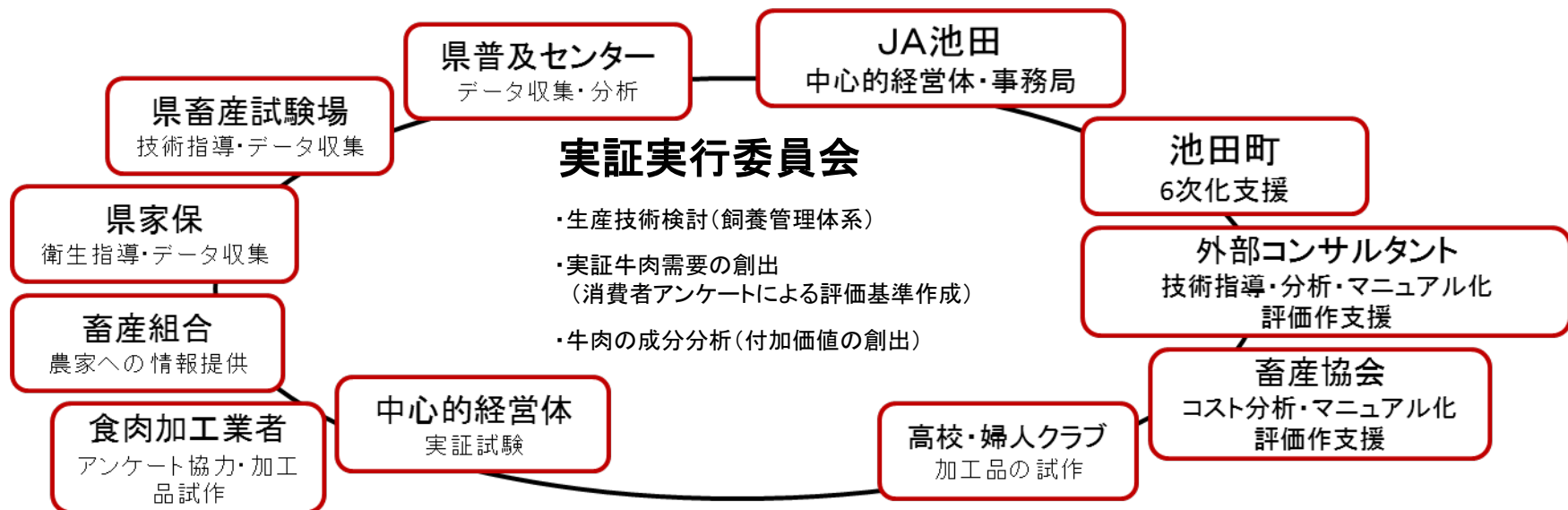
濃厚飼料軽減、疾病淘汰牛の減少、乳質向上による高付加価値生乳の生産、総体的な優良後継牛確保と生産性向上による地域農業所得増。

生乳生産増加～2%向上(1頭当たり乳量平均167kg増加)

飼料自給率:4.4%向上

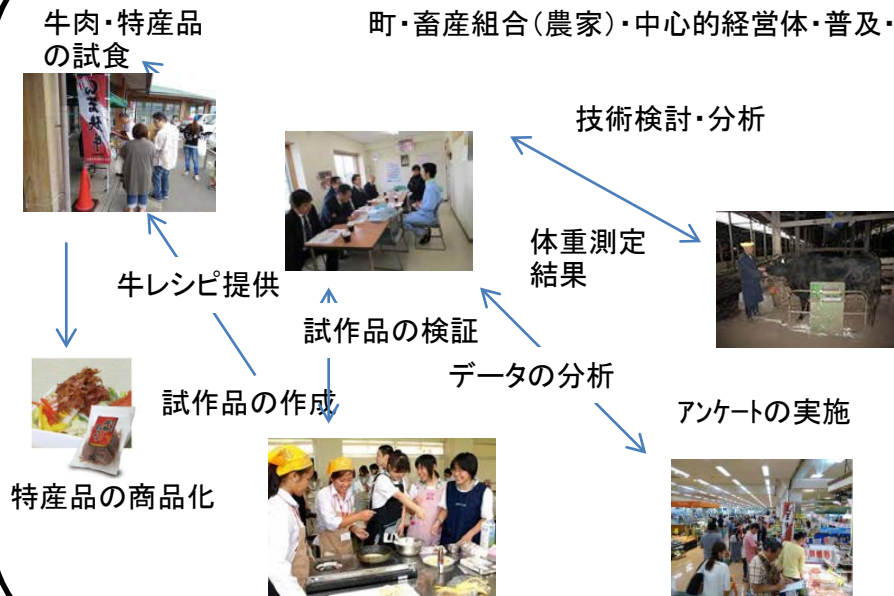


池田町畜産クラスター協議会（調査・実証事業）



新技術の実証及び地域収益力向上への新需要創出

町・畜産組合（農家）・中心的経営体・普及・畜試・家保・JA・外部コンサル・畜産協会



目的・行動計画

- ・地域の畜産経営維持の為、超短期肥育（21か月齢出荷）の実証試験を実施し、技術データ収集・分析、また、コスト分析により、地域内に定着できるよう飼養管理等のマニュアル化を図る。
- ・生産物については、牛肉成分分析と食味アンケートを実施する等販売戦略の実証を行い付加価値の創出を狙う。
- ・高校・婦人クラブなどと連携し、牛肉の加工品の試作などを行い、地域内で6次化の準備を推進。

期待される効果（成果報告としての資料）

- ・肥育期間短縮による飼料費の低減
- ・肥育回転率の増に伴う収益力の向上
- ・牛肉の加工品の制作により、肥育経営の高価格販売への期待、地域産業の活性化への期待
- ・嗜好の多様化に伴う、新たな年代へ需要の拡大



乳用牛ベストパフォーマンスの実現に向けて



滝上町の酪農情勢は、後継者不在の離農による戸数減少に伴う乳用牛の飼養頭数減少や繁殖成績の低下により、生乳生産量の減少となっていることから生産基盤の確保が課題となっています。

平成24年度より取り組んできました＜土づくり・草づくり＞に特化した第1ステージ「ステップ・アップ↑滝上植生改善プロジェクト」から飼養・繁殖管理を見つめ直し＜牛づくり＞に特化した第2ステージ「乳用牛ベストパフォーマンスプロジェクト《滝上BPP》」により、酪農・畜産収益力の向上の実現を図る。

Why <どうして> 課題

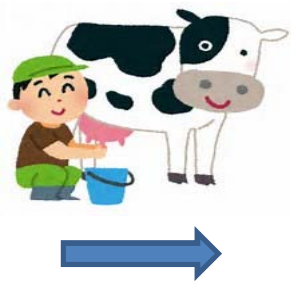
平成24年度19,871 tをピークに平成27年度19,261 tに落ち込んだ主たる要因は、疾病による廃用や除籍(経産牛頭数の減少)・乳房炎・繁殖遅延や受胎率の低下・分娩事故や子牛の事故が減らない等の顕著な問題が想定され結果として平均産次数 2.5 産・除籍産次数 3.0産となり全道平均を下回る状況で推移しています。

そこで改善支援チームを立ち上げ乳検データをはじめとして様々なデータを解析し問題点の明確化により長命連産性の高い牛づくりによる、乳牛の能力を最大限に引き出すベストパフォーマンス酪農に取り組む。

Begin <はじめる> 取組

- ①後継牛の確保
- ②経産牛の供用期間の延長
- ③飼養・繁殖管理の徹底
- ④搾乳手法の改善
- ⑤環境・施設の改善

☆酪農家の取組み・行動



Try <ためす> 行動

- ①性判別精液の活用
- ②ワクチンの接種
- ③定期的な繁殖検診
- ④初回授精開始日の短縮
- ⑤検定情報の活用
- ⑥環境・施設の改修・取得

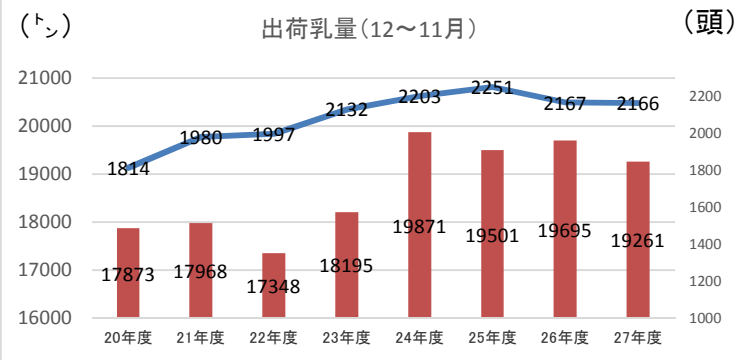
☆支援チームからの提案

地域全体での収益増
(生乳増産による収益の増加)

1,905ト×90.5円=172,400千円

Goal <せいか> Repeat <くいかえし> 効果・検証

	現状(H26)	目標(H32)	最終目標
①生乳生産量の増加	19,695 ト ⇒	21,600 ト ⇒	(22,500 ト)
②飼養頭数の増加	2,167 頭 ⇒	2,365 頭 ⇒	(2,650 頭)
③平均産次数産	2.5 産 ⇒	2.7 産 ⇒	(3.0 産)
④除籍産次数	3.0 産 ⇒	3.5 産 ⇒	(4.0 産)



滝上町農業推進協議会

<BPP改善支援対策チーム>

- ☆滝上町酪農組合
- ☆オホーツクNOSAI
- ☆道総研 根釧農業試験場
- ☆網走地区農業改良普及センター
- ☆北海道酪農検定検査協会
- ☆滝上町農業振興公社
- ☆滝上町
- ☆帯広畜産大学
- ☆ホクレン
- ☆JAオホーツクはまなす